

第135回国会概観

—— 村山内閣総辞職・橋本新内閣発足 ——

第135回国会（臨時会）は、平成8年1月11日に召集された。

会期は、同日の衆参両院本会議でそれぞれ採決の結果、13日までの3日間となった。

開会式は、召集日当日の午後1時から参議院議場で行われた。

今国会は、平成8年1月5日の村山総理の辞任表明を受けて召集された国会であり、院の構成及び内閣総理大臣の指名のほか、参議院事務総長の選挙等が行われた。なお、議案の審議は行われなかった。

12日、衆参両院本会議においてそれぞれ会期末手続等が行われ、第135回国会は会期を1日残して事実上閉幕した。

【院の構成】

召集日当日の参本会議で、科学技術特別委員会、環境特別委員会、災害対策特別委員会、選挙制度に関する特別委員会、沖縄及び北方問題に関する特別委員会、地方分権及び規制緩和に関する特別委員会、中小企業対策特別委員会及び国会等の移転に関する特別委員会の8特別委員会が設置された。

衆議院においては、9特別委員会が設置された。

なお、衆参両院ともに宗教法人（等）に関する特別委員会の設置は見送られた。

同日の参本会議で、戸張正雄事務総長の辞任が許可され、後任の事務総長に黒澤隆雄事務次長が議長の指名により選任された。

【橋本新内閣の発足】

1月5日、村山総理は臨時閣議において正式に辞任を表明した。

記者会見において総理は、「総理を辞任して自民、社会、さきがけの連立与党3党の枠組みの中で政権を引き継ぎたい」との意向を明らかにした。また、「景気に上向きの兆しも出てきているので、人心を一新して、さらに日本の景気の足取りを確実なものにし、当面する内外の諸問題に積極的に取り組んでもらいたいという思いで決意した」と辞任の理由に触れるとともに、「今後とも3党連立を強化し、政策の合意を目指しながら国民の期待にこたえ、当面する諸問題の解決に努力していただきたいと自民党総裁、さきがけ代表に要請した」と述べた。

これを受けて7日夜、連立与党3党は、連立維持の立場から、3党の幹事長・書記長、政策担当責任者らによる会談において、3党連立政権での3度目の

政策合意「新しい政権に向けての３党政策合意」をまとめた。

さらに、８日の連立与党３党首会談において、政策合意を確認し、あわせて内閣総理大臣指名選挙の統一候補として橋本自民党総裁を決定した。

召集日当日、村山総理は臨時閣議を開いて閣僚全員の辞表を取りまとめ、村山内閣は総辞職した。

同日の衆参両院本会議において、それぞれ院の構成、３日間の会期の決定を行い、議長から内閣総辞職の決定通知書が届いたことの報告があった後、記名投票により内閣総理大臣の指名選挙が行われた。

衆議院における記名投票（投票総数489、過半数245）の結果は、橋本龍太郎君288票、小沢一郎君167票、不破哲三君15票、海江田万里君５票、矢田部理君２票、笹野貞子君２票、小島慶三君１票、無効票９票（白票８票）であった。

参議院での記名投票（投票総数251、過半数126）の結果は、橋本龍太郎君158票、小沢一郎君69票、不破哲三君14票、矢田部理君３票、笹野貞子君３票、白票４票であった。

以上の結果、橋本自民党総裁が第82代53人目の内閣総理大臣に指名された。

自民党総裁が内閣総理大臣となるのは、平成５年８月に退陣した宮澤喜一元総理以来２年５カ月ぶりである。

橋本新総理は、同日夜組閣を行い、皇居での親任式・認証式を経て新内閣を発足させた。参議院からは、岡部三郎君、久保亘君、倉田寛之君、鈴木和美君の４議員が入閣した。

同12日、橋本新総理は、就任後初めての記者会見で、新内閣の性格を「改革と創造」と述べ、会見のうち半分近くを住専の不良債権処理問題に費やしたほか、景気対策、沖縄の米軍基地問題、消費税の引き上げ問題、戦後処理問題、歴史認識等の内外の政策課題及び衆議院の解散・総選挙等の政局について見解を明らかにするとともに、今年を「構造改革元年」と位置づけ、新政権として戦後の政治、経済、行政システムの改革を断行する決意を表明した。

【法律案等の審議概況】

今国会中、衆参両院議員及び内閣から新たに提出された議案はなく、議案の審議は行われなかった。

参議院で継続審査とした議案は、平成４年度本決算外２件及び平成５年度本決算外２件である。

衆議院では、前国会から継続中の議案（衆法13件、決算６件）のすべてを継続審査とした。